

京都府地球温暖化防止活動推進センター通信

STOP! GLOBAL WARMING

うおーみんぐ

LET'S WARM UP OUR ACTION

平成 18 年
秋号
～第 10 号～

地球温暖化問題に取り組む人のための通信です。
実践活動への意欲を、アイデアを、仲間同士の関係を、ホットに温めます！



写真：自然エネルギー学校・丹後での太陽光パネルを使った実習の様子

CONTENTS

- 巻頭特集
インタビュー どうすすめる？
京都での自然エネルギー普及P.2 ～ 3
- 報告 推進員研修P.4
- CLOSE UP 地域活動！
推進員、各地で活躍中！P.5
- 活動レポートP.6 ～ 7
- 事務局からのお知らせP.8



京都府地球温暖化防止活動推進センター

Kyoto Center for Climate Actions

京都府地球温暖化防止活動推進センターは、府内の温暖化防止活動を様々な面からサポートし、一層活性化させることを目的に活動するセンターです。平成 15 年 10 月 10 日、府内の多様な団体が連携し新たに立ち上げた NPO 法人 京都地球温暖化防止府民会議が京都府知事からセンターとしての指定を受け、その活動を開始しました。

京都府地球温暖化防止活動推進センターの活動は、国、京都府、府内の多様な団体、会員の皆様などのご支援によって支えられています。

京都での自然エネルギー普及 どうすすめる？

立命館大学の
和田先生に
お聞きしました

地球温暖化防止のためには、太陽光発電や風力発電といった自然エネルギーを活用することが必要だと言われていますが、それは京都でも実現可能なものなのでしょうか。また、どのように普及を進めていったらよいのでしょうか。

立命館大学産業社会学部特別招聘教授で、世界の自然エネルギー普及策に詳しい和田武氏にお聞きしました。



■温暖化防止だけじゃない！

自然エネルギーの魅力

Q 自然エネルギー普及の意義についてお聞かせください。

A 言うまでもありませんが、地球温暖化防止に大きく役立ちます。温暖化防止のためには、世界全体でのCO2排出量を1/4程度まで削減する必要がありますが、これを省エネだけで達成するのは困難です。CO2を出さない自然エネルギーの活用が不可欠なのです。

加えて、自然エネルギー普及は、地域社会に好影響を与えます。自然エネルギーは、どこにでもなんらかの形で存在しますので、住民や自治体などが普及の担い手になりやすいのです。ですから、地域独自の雇用や産業の創出、魅力的なまちづくりにつながっていきます。実際、国内外でこうした事例が数多くできています。

また、エネルギーの自給率が高まる、途上国の人々の生活向上に役立つ、産油地をめぐる紛争の減少につながるなど、自然エネルギー普及には様々な意義があります。

従来の化石燃料が持っていない

こうしたメリットを認識し、社会全体で「21世紀を自然エネルギー中心の世紀にする」という合意を持つ必要があります。

■京都にも大きな可能性が

Q 京都にも自然エネルギー資源は存在するのでしょうか。

A 試算した結果、京都だけではなく、日本全国に豊富に存在することがわかっています。

まず、太陽光発電はどの地域でも実施可能です。建造物の屋上だけではなく、空き地に設置することも可能ですし、今後の技術発展も望めますので、潜在的には電力の大部分をまかなえる資源が存在しています。

また、バイオマス（生物由来の資源）も有望です。森林面積の割合が日本と同程度のスウェーデンでは、森林資源を利用した発電や暖房を大幅に取り入れています。京都府の中北部にはこれを実現できる可能性があります。加えて、休耕田で油のとれる菜の花を栽培するなど、エネルギー作物を栽培することも有効です。これは都市部を除き府域のどこでも実施可能です。



写真：京都府企業局が伊根町に建設した太鼓山風力発電所。750kWの風車が6基建てられている。
(写真提供：気候ネットワーク)

風力発電の導入量は、現在ドイツが世界の1/3を占めていますが、私は資源量は日本の方が上回っているのではないかと推定しています。京都でも、丹後地域にはかなりの風力資源が存在すると考えられます。太鼓山の風力発電所は雷による被害や機械トラブルもありますが、太鼓山風力発電所が建てられた当時と比べ、現在では風車の性能が断然良くなってきており、普及の余地は大きいと思います。

■住民が主役になることが トラブルを防ぐ

Q 風力発電に対する反対運動の記事を最近よく見かけるようになったのですが、どのように解決していったらよいのでしょうか。

A 建ててよいところと悪いところの基準が曖昧であることが、トラブルを生む要因となっています。明確な基準を設けることが、一つの対処法だと思います。

しかし、何よりも有効な選択肢は、「地域住民が中心となって建設する」ということです。例えばドイツや、国土面積あたり、人口あ

たりの風力発電設備容量第1位の国デンマークでは、風車建設の中心となっているのは住民です。自分たちの地域に自分たちがお金を出し合って風車を建設し、その利益は当然、自分たちに還元されるという仕組みになっているわけです。このような方法であれば、不必要に開発される恐れも小さくなりますし、他の地域の企業が利益だけを吸い上げることへの反感も生まれません。日本でも、北海道や東北を中心に「市民風車」が誕生しつつありますが、こうした動きをさらに拡げ、京都でも実現できると良いと思います。

もっとも、バードストライク（鳥が風車に接触する事故）の問題には慎重に対処しなければなりません。事前に充分調査することが必要です。ただ、考えていただきたいことは、鳥は風車以外に電線や建物などによっても被害を受けており、温暖化によって甚大な被害を受けるといえることです。人もすべての生き物も持続的に生息できる環境を、総合的な視点で築いていくことが必要です。

■地域が主体となる

モデル事例づくりを

Q 今後さらに普及していくためにはどうすればよいのでしょうか。

A 「自然エネルギー普及をどの程度推進するか」だけではなく、「それをいかにして住民主体で行うか」という発想が必要でしょうね。

現在、自然エネルギーはコスト的には石炭火力発電などにはかないません。しかし、自然エネルギーのメリットは他にあるのですから、これを最大限に活かすことが必要です。地域住民や地方自治体が「地域活性化の一つの切り口として自然エネルギーを活用する」という視点を持ち、そこで出てくるアイデアを実行に移すことが重要なのです。それらを後押しする国の制度や政策も重要ですが、こうして多くの地域が変わっていくなかで、そのような制度や政策を生み出すパワーが強まっていくでしょう。住民が、あるいは商工会や農協、森林組合などの地域組織が、そして最も身近なガバメントである市町村がモデル事例をつくることが求められていると思います。

報告 推進員研修

第2・3回

今年度の第2回、第3回となる推進員研修会を、それぞれ8月26と27日、9月30日と10月1日に開催しました。いずれも、推進員の実践例報告に続いて専門家からのコメントをいただき、企画ワークショップを行うという流れで実施しました。

ここでは、コメントの内容を簡単にまとめて紹介します。

第2回

人を惹きつける展示とは

コメンテーター：松原雅裕さん（デジタルリウムプロジェクト）
金田裕子さん（イリュージョンミル）

冊子、インターネット、テレビ、ラジオ。世の中には様々なメディアがありますが、「展示」というメディアが持つ独特の強みは、「実物を間近で見せることができる」、「見る人が一緒になって作っていくことができる」、「見る人同士の間で会話が生まれる」といった点にあります。展示を企画する際には、このような強みを活かす工夫が必要です。

展示スペースの作り方や展示物の配置方法にも工夫すると、効果は大きくなります。例えば、イベント会場などでは、人の流れに向けてVの字型に展示を作って流れを呼び込むことも効果的です。また、視線は、遠くから見るときには上の方に、近くから見るときには逆に下の方（目の前）に集まりますので、上の方には大きな写真や文字を展示して関心をひき、

細かな説明は下のほうに配置することも有効です。

東京にあるストップおんだん館では、来場者に合わせて展示物の高さを調節したり、来場者の反応を見て展示内容を更新したりするなど、常に来場者の興味を惹く展示づくりを心がけています。また、完成品としての展示を見せるのではなく、来場者からの情報やアンケート、ワークシートをそのまま展示するなど、展示づくりに来場者を巻き込む仕掛けをつくっています。

展示の中に常に答えを用意する必要はありません。来場者が、展示を見て、触って、作っていくなかで何かを感じ、考えるという過程が大事なのだと思います。展示を見て疑問に思ったことを家に持ち帰り、暮らしの中でまた答えを探してもらおう、そんな展示もよいのではないのでしょうか。

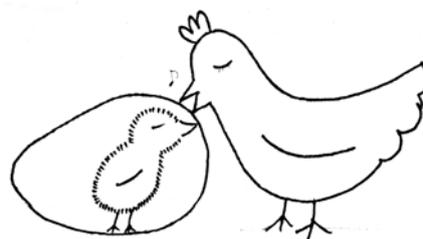
第3回

子どもたちに伝える わかりやすく伝える

コメンテーター：薦田直紀さん（脱温暖化センターひろしま事務局長）

教育学において、教育とは啐啄同時^{そったくどうじ}ということばに表されます。啐とは、卵の中から雛が殻をつつくことを言い、啄とは、親がそれを助けることを言い、これが同時に行われなければなりません。つまり、相手が興味・関心を持ち始め学習する準備が整った時と、教える側が話をし始めるタイミングが一致していなければならないということです。伝えるためには、子どもの声を聞くことによって、持っている知識や経験のレベルを把握しながら対応していくことが大切です。そのための大きな3要素として、「態度(Attitude)」「技術(Skills)」「知識(Knowledge)」があります。この3つの要素に関して、常に自身へ問いかけておく(ASK) が必要です。

子供たちにわかりやすく伝えるためには、具体的には、熱意をもつこと、わかりやすいことばを選ぶこと、子供の声や反応をしっかりと聞くこと、教える側として情報を収集しておくこと、子供たちのレベルを把握すること、教材・プログラムを創作することが必要な要素となります。





推進員、各地で活躍中！

@京都府全域

このコーナーでは地域での温暖化防止活動の実践例を紹介します。

府内各地で、地球温暖化防止活動推進員による積極的な活動が進められつつあります。

推進員が相互の情報交換のために作成している「推進員連絡会通信 Vol.5」に寄せられた記事の内容を中心に、活動内容を簡単に紹介します。（※ここに掲載した以外にも様々な活動が実践されています）

●綾部

推進員市内の2つの小学校に、それぞれ6名、4名の推進員が出向き、小さな太陽光発電パネルを使ったオルゴールの工作教室を実施。「今日は曇っとるのになんで鳴るんやろ？」など、自然エネルギーに興味をもった子供たちの声がたくさん聞かれています。

また、家庭から排出される天ぷら油の燃料化へ向けた取り組みがスタートしました。これは、推進員も参加する綾部市環境市民会議とセンターとが共同で進める「ちいき・いき・いき温暖化防止プロジェクト」として行っているもの。すでに地区単位でのきめ細かい回収体制が構築され、現在、燃料の利用形態についての検討が行われています。

●乙訓

3名の推進員とセンタースタッフとが協力し、コミュニティセンターで親子温暖化教室を実施。乙訓保健所で開催された「乙訓の環境を考える交流会」にも10名の推進員が参加し、意見交換・ネットワーク作りを行いました。西山森林ボランティア行事にも参加しました。

また、推進員らが参加する長岡京市環境の都づくり会議は、綾部と同じく「ちいき・いき・いき温暖化防止プロジェクト」として廃食用油燃料化の仕組みづくりをスタート。廃棄物収集事業者等の協力の下、自治会やボランティア、高校生なども参加しての回収が軌道に乗り始めており、燃料の用途についても、市や保育園などと議論がなされています。

●京丹後

市が実施する燃料電池車の試乗体験を含む啓発事業に合わせ、味田佳子さんが2つの小学校で地球温暖化について講演。また、「自然エネルギー学校・丹後」にも推進員が3名参加し、ネットワークづくりに務めています。

●福知山

森田愛子さんら福知山環境会議メンバーが「生ごみリサイクルによる町と村の共生プロジェクト」を推進中。一般家庭への普及を目指して取り組んでいます。



●口丹

首長に挨拶し、広域振興局に加わってもらう形での推進員連絡会ミーティングも重ねて関係作りをすすめてきました。秋には、地域の様々なイベントで参加者と話し合い、共に学べるよう、温暖化の啓発ブースを出展予定です。

●相楽

木津町でグリーンカーテンプロジェクトを実施。町役場や町内の保育園、小学校等に「カーテン」を設置したほか、木津町内にある積水ハウス総合研究所でのグリーンカーテン学習会・見学会を企画・実践してきました。

●舞鶴

森下正さんが所属する京都中小企業家同友会北部地域会循環型社会研究会でKES環境マネジメントシステムスタンダードの構築講座を企画・開催。中小企業の温暖化対策推進を働きかけています。

●宇治久御山

山城北保健所主催の交流会に5名の推進員が参加。地元企業や環境団体と情報交換を行いました。また、久御山町内で、鷲見治男さんと荒川伸宏さんが小学生を対象に温暖化防止の教室を実施。温暖化紙芝居による説明や、海面上昇の仕組みを説明する実験を行いました。



写真：温暖化防止の教室の様子

●城陽

岡本やすよさんは、「水まき大作戦」を実施。実際に気温が下がることが確認できました。澤田哲さんが会長を務める城陽環境パートナーシップ会議が、南丹市のバイオエコロジーセンター等をめぐるバスツアーを実施。11月には城陽市環境フォーラムを実施予定。

●八幡

推進員も参加する八幡市環境市民ネットは、ひと夏活躍したゴーヤーの撤収作業を実施（関連記事7面）。啓発プロジェクト「地球レンジャー」は、手作りの衣装が完成。歌の吹き込みも完了し、脚本（第3話）も完成間近です。マイバッグの調査も行いました。

●「木だわりの住み家ツアー開催しました」

10月7日に、福知山にて地域にある素材を活かした「木だわりの住み家」見学ツアーを開催しました。

地域産の木材を使うことが温暖化防止につながるということは、多くの方が理解している話ですが、実際に地域の木で建てた家を目にする機会はなかなかないものです。そこで、今回は、実際に地域材で建てられた住宅と、その木材を供給した森林及び製材所を見学し、“こんなすてきなお宅が、実は環境にも優しいんだ”ということを目で見て、肌で感じて欲しいという意図でツアーを開催しました。

見学した住宅は、使用された木材のほとんどが福知山市内で伐採されたもの。床は低温の温水床暖房になっていて、フローリングは

写真：
木だわりの住み家の
前での集合写真



床暖房の影響を考慮し、スギの厚板とヒノキの二重張りになっています。また、天井と壁はそれぞれウール（天然）と分厚い珪藻土入りの土壁でしっかり断熱しており、これに加えて、薪ストーブで暖をとるのだそうです。

住み手の快適さと、環境への配慮のバランスがうまくとれた住宅だと感じました。

今回の住宅への木材の供給から製材・建築までを一手に引き受けられた、伊東木材株式会社・伊東建設工

業株式会社の伊東宏一社長からは、「私はできれば150歳まで生きたい。そして自分が手入れした山がどうなるのか、この目で見てみたい。これからも国産材、特に地域材にこだわった家づくりをしていきたい」とお話しいただき、熱い思いがひしひしと伝わってきました。

森林や製材所の見学も含めて、家づくりに込められた思いやこだわりを、作り手から熱く語ってもらえる貴重な機会となったのではないのでしょうか。

●省エネマイスター研修を今年も行いました！

今年度から京都府知事の認定となった「省エネマイスター」認定研修を、9月には家電量販店・スーパーなど、10月には地域家電店などを対象として、それぞれ計6回開催しました。あわせて、この10月から施行された「統一省エネラベル」やエアコン・冷蔵庫などの新しい省エネ基準について、センタースタッフや京都府・京都市の担当者より家電店に対して周知を行いました。

●CASBEEを用いた新しい京都版住宅環境性能評価の仕組みづくりがスタート

京都府とセンターが中心となり、省エネ性能や使われている木材、自然環境との調和など様々な項目に基づき住宅の環境性能を評価する仕組みを、現在、(財)建築環境・省エネルギー機構で開発中の「CASBEE-すまい(戸建)」をベースとした形で、学識経験者・建築家などを交えて検討中です。来年度には運用を開始し、第三者評価のできる仕組みを目指して制度面の整備に入る予定です。

●「省エネ家電買替え診断プログラム」を開発しています

エアコン・冷蔵庫など、買替えに伴う省エネ効果の大きな家電製品について、家庭での使用状況を踏まえて可能な限り正確な買替え省エネ効果を診断するプログラムを、家電メーカー・学識経験者・NPO・家電店・京都府・京都市などとの連携により開発中です。

●グリーンカーテンプロジェクト

下の写真をご覧ください。ゴーヤーが成長し、見事な「グリーンカーテン」になっています。



写真：八幡市立みその保育園のグリーンカーテン

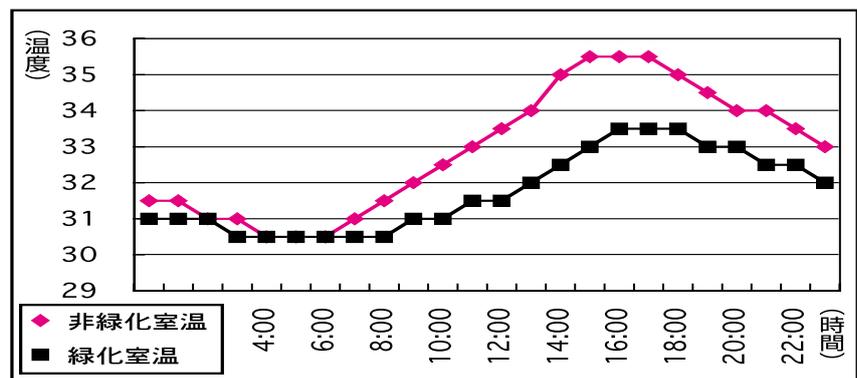
今年度、八幡市と木津町では、八幡市環境市民ネットや木津町リサイクル研修ステーションとそこに参画する推進員、八幡市、木津町、そして当センターが協力してグリーンカーテンプロジェクトを進めてきました。八幡市では、市

立の幼稚園・保育園すべて（計12園）に、木津町では、町役場、愛光保育園、緑化協会などに「カーテン」が設置されました。京都府温暖化防止センターは、温度計を設置し、グリーンカーテンの効果を計測しました。グラフは、八幡市立みその保育園のとある一日（休園日）の、グリーンカーテンがある部屋と無い部屋の室温変化を比較したものです。西日を防ぐことで、温度上昇を抑えることができているのがわかります。

グリーンカーテンは、日陰を作るだけではなく、蒸散の効果などから、体感温度はさらに低くなるとのこと。実際、保育士さんたちからも「陰に入るとヒヤッとしますね」という声をいただいています。

このグリーンカーテン設置に合わせ、八幡市、木津町どちらの地域でも、グリーンカーテンにからめた環境教育も実施されています。

12月には実践例報告会を開催することになりましたのでぜひご参加ください（8面参照）。



●「京都市圏公共交通便利マップ」を作成しています

京都府交通対策課と連携して、京都府南部の全ての鉄道・バス会社の協力のもと、公共交通路線図や乗換え情報などをセンターが一元的に集約して、地域ごとの「お出かけマップ」を作成しやすくし地域の公共交通利用を促すための「京都市圏公共交通便利マップ」を現在作成中です。

●自然エネルギー学校・丹後を実施しています

環境省からの補助を受けて実施する普及啓発・広報事業の一環として「自然エネルギー学校・丹後」を実施しています。これは、自然エネルギーについて体験的に学ぶ4回連続の講座で、知識をつけるだけではなく、担い手のネットワーク作りも目指しています。

●ワンデーエコライフキャンペーンを実施します！

京都府センターでは昨年度、「京都CO₂ダイエット宣言」と称し、京都議定書発効記念の2月16日付近にインターネットを利用したワンデーエコライフの呼びかけを行いました。今年度は秋よりホームページを新たにオープンし、ワンデーエコライフの呼びかけを行います！このホームページでは、省エネの取り組みを行いながらポイントを貯め、ポイントが貯まると特典を受けることができます。ぜひ一度アクセスしてみてください！アドレス→<http://kyoto216.com>（近日OPEN予定）

「京都環境フェスティバル 2006」を開催します！

今年も、京都府等と連携して京都環境フェスティバルを開催します。ぜひご参加下さい！

日時：12月9日（土）10日（日）いずれも10：00～16：00

場所：京都府総合見本市会館（パルスプラザ）

（京都府伏見区 地下鉄竹田駅からシャトルバスあり）

内容：かえっこバザール（おもちゃとおもちゃを交換してリユース）

ワークショップコーナー（ふるしき体験ミニ教室など）

出展ブース 低公害車コーナー 飲食コーナー

ステージイベント 9日 ウルトラマンコスモスミニショー

10日 赤星たみこトークショー 等

入場無料

☆テーマゾーンでは、京都の木を使った暮らしを紹介します。

☆当センターのブースでは、「ピーターラビット®とおんだんかのおはなし」を展示します。

関連企画

地域の温暖化対策、ただいま進行中！ 2006

日時：平成18年12月10日（日）12：40～14：40

場所：京都環境フェスティバル会場内 ワークショップ会場

※参加費無料。事前申し込みは不要です。

テーマは
「グリーンカーテン」

テーマはグリーンカーテン。7面の記事をご覧になって、「どうやったらこんなに立派に育つんだろう？」と疑問を持たれた皆さん。ぜひご参加ください。担い手からの実践例報告と専門家からのコメントで、ノウハウをお伝えします。ご参加いただいた方には、「グリーンカーテンマニュアル（仮）」を差し上げる予定です。

※この企画は、日本環境協会の委託を受けて行う京都府地球温暖化防止活動推進員等研修事業の一環として実施しますが、推進員以外の方にもご参加いただけます。

編集後記

10月の推進員研修のテーマは環境教育でした。ふだん実践することが多くても、教育論のようなお話はあまり聞く機会がなく、とても勉強になりました。

今後も、子どもと接することがたくさんある中、活かすことができるよう心がけたいと思います。

（よしかわ）

自然エネルギー学校・丹後に行ってきました。

今回のテーマは「太陽エネルギー利用」。天気はどうなるか、正直どきどきしていたのですが、熱意が天に通じて（？）当日は見事に快晴。「ソーラークッカー」でポップコーンができましたし、太陽光発電をつかった実習もうまくいきました。

今回は風力発電の見学。次も晴れますように！

（きはら）

京都府地球温暖化防止活動推進センター通信「うぉーみんぐ」

（平成18年秋号 平成18年10月発行（年4回発行））

発行：京都府地球温暖化防止活動推進センター

（特定非営利活動法人 京都地球温暖化防止府民会議）

理事長：郡崙 孝 運営委員長：浅岡 美恵

〒604-0965 京都市中京区柳馬場通二条上る六丁目283番4

TEL：075-211-8895 FAX：075-211-8896

URL：http://www.kcfc.or.jp E-mail：center@kcfc.or.jp

編集：伊東 真吾 木原 浩貴 洲上 佑樹 林川 美保 永野 恵子 吉川 春菜

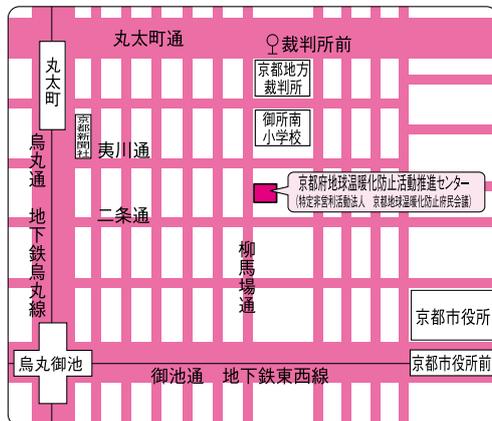
法人の活動を支えてくださる会員を募集しています！

年会費 正会員（個人）：1,000円 正会員（団体）：2,000円

準会員（個人）：1,000円 準会員（団体）：2,000円

賛助会員：10,000円

詳しくは事務局までお問い合わせ下さい。



この印刷物は、古紙配合率100%の再生紙に、大豆インキで、風力発電による自然エネルギーを使って印刷しています。

